



第36期第1回京都市社会教育委員会議の模様をマナビィがレポート！

令和5年8月29日（火）、京都市総合教育センターにおいて、第36期京都市社会教育委員会議の第1回目となる会議が開催されました。初回ということで、自己紹介や今後の会議の進め方について議論されました。

■ 出席委員（17名のうち16名） ※五十音順

伊住 禮次郎 委員、稲垣 恭子 委員、ウスビ・サコ 委員、大脇 晋太郎 委員、園部 晋吾 委員、豊田 まゆみ 委員、永田 紅 委員、中本 貴久 委員、七海 薫子 委員、二宮 靖男 委員、原 敏之 委員、本郷 真紹 委員、桎木 良子 委員、松田 規久子 委員、森 清顕 委員、森口 真希 委員

第36期第1回社会教育委員会議次第

- 第36期委員自己紹介
- 委員の職務・会議規則等について
- 議長・副議長の選出

開 会

1 議 事

- (1) 会議の公開について
- (2) 京（みやこ）まナビミーティングについて
- (3) 第36期の審議テーマ等について

2 報 告

- (1) 京（みやこ）まナビミーティングについて（本郷委員）
- (2) 京（みやこ）まナビいニュースレターについて
- (3) 令和5年度 指定都市社会教育委員連絡協議会（WEB開催）について

3 主催事業及び刊行物の案内

閉 会

■ 稲田教育長挨拶

■ 門川京都市長メッセージ



■ 自己紹介

○ 伊住 禮次郎 委員（茶道総合資料館副館長）



お茶の普及活動や茶道資料館の運営・学芸員として活動しています。その他に、NPO法人 和の学校の理事長を務め、子どもたちの社会教育の場、体験学習、文化を伝えるための活動の場の提供についても取り組んでいます。しっかりと勉強しながら、私たちの取組と上手に噛み合うことがあれば嬉しいと思っています。

○ 稲垣 恭子 委員（京都大学理事・副学長）

長年、京都大学教育学研究科で教育社会学を専門にしまして、3年前から理事を務めています。男女共同参画の推進を担当している関係で保育にも関わり、12月に大学としては初めて、学童保育施設（※）を新設することになりました。空間作りや環境など、トータルに教育文化を生活レベルから作っていくことが、子どもにとって大切だと改めて思っています。文化庁の京都移転をきっかけに、ぜひ教育文化をベースとしたまちづくりと社会教育について勉強させていただければと思います。



※学童保育所京都大学キッズコミュニティ (KuSuKu) は12月9日オープン予定だよ。



○ ウスビ・サコ 委員（京都精華大学前学長、人間環境デザインプログラム教授委員）



最近まで京都精華大学の学長を務め、今は、京都市立美術工芸高等学校（旧京都市立銅駝美術工芸高等学校）の学校運営協議会で理事長を務めています。

今、若者がアイデンティティ・クライシス、自分の足元が見えてこない状況に陥っていると感じています。情報化やグローバル化の影響もあるでしょう。その中でそれぞれがどのように自分と向き合っていくかということについて、様々なところで発言をしています。最近、書籍『不自由な社会で自由に生きる』を出版しました。

また、様々な学校でPTAや子どもたちと関わりながら、大人が、子どもの目線で、どのように社会について考えたらいいかと考えています。情報化社会の中で自分を見失っている若者の問題は、一つの国の問題ではなく、世界共通です。したがって、ここで考えられることは、恐らく世界のどこでも同じように考えられることではないかと思っています。

○ 大脇 晋太郎 委員（市民公募委員）

叡山電鉄で鉄道運転士をしています。ボランティアで5年程前から、子ども食堂「京都 Tera.Coya」で勉強を教え、多くの子が公立高校に行けるようになりました。保護者から「家庭の教育をどうしたらいいか」という質問や相談を受ける中で、社会教育委員会議でも家庭の教育が優先課題として置かれているということを知り、市民公募委員に応募しました。



○ 園部 晋吾 委員（NPO 法人日本料理アカデミー副理事長、山ばな平八茶屋主人）



山ばな平八茶屋で料理人をし、NPO法人日本料理アカデミーで副理事長をしています。これまで地域食育委員長として、食育に携わってきました。教育委員会とも連携し、授業で食育の取組、また食育指導員や先生方へ講習会をしてきました。そこでは子どもたちと密なつながりを持つ機会があり、私自身が学ぶことも多々ありました。それをこの会議で生かすことができればと思っています。

○ 豊田 まゆみ 委員（一般社団法人京都市地域女性連合会理事委員）

30年間教員をし、早期退職したと同時に地域からお声が掛かり、女性会に足を踏み入れました。目的を持って活動することは、自分を生き生きさせる源となと感じています。女性会では広報を担当し、広報紙『京都女性』の編集に携わっているため、活動を紹介できるかと思います。ここでは、普段接することのできない方々からお話を伺う貴重な機会をいただき、ありがたく思っています。



○ 永田 紅 委員（歌人、京都大学特任助教）



京都大学では細胞生物学を専門とし、顕微鏡で細胞を観察して、一方で、家に帰って短歌を作るという生活をしています。

短歌の世界にもAIが迫り、AIが言葉を組み合わせる時代になりました。AIが作る短歌がけっこう面白かったりする。そんな中で、生身の人間が歌を作る意味や、文学を鑑賞する意味、表現する意味とは何だろうかと考えているところです。AIが何でもやってしまう時代にあって、それは、人間が学習・勉強する意味、そして教育とは何かということを考えることにもつながります。これからの時代をどのように生きていけばいいのか。様々なことをここで皆様と一緒に考えさせていただければと思っています。

○ 中本 貴久 委員（令和5年度京都市PTA連絡協議会会長）

京都市PTA連絡協議会として、今年度は「京からはじまる 持続可能で レジリエンスのあるPTA」をスローガンに掲げています。コロナ禍を経て、デジタル化社会の進展や情報処理能力も含めた様々な課題の中で、子どもたちにとってより良い環境作り、より良いPTA活動、そしてより良い社会を作っていきたいと思っています。



○ 七海 薫子 委員（市民公募委員）



アナウンサー、俳優、ラジオの構成作家をしています。大学時代に太秦の映画制作に携わったことをきっかけに、地域おこしにも関わっています。

コロナ禍で子どもたちの活動場所を作るために、放送や取材環境を整えて、ラジオ制作を企画しています。最近は、ひきこもりの大学生や高齢者にも参加していただき、誰もが輝けるようなラジオを制作しています。どんなものにも良い面があるので、まずは褒め、足りないところは提案していけたらと思います。

○ 二宮 靖男 委員（京都市小学校長会理事、京都市立翔鸞小学校長）

上京区の翔鸞小学校の校長です。小学校では、熱中症に気をつけるため、運動場に設置されている熱中症計の数値を30分ごとに見て、休み時間の遊びや体育を制限しながら学校生活を送っています。学校や現場の子どもたちの様子をお伝えできればよいかと思っています。



○ 原 敏之 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）



電電公社（現在の電信電話株式会社）に入社し、サラリーマンとして働いてきました。この40年間は、民営化闘争、そして東西の分離化闘争、これからはグローバルという形で企業も大きく変わってきました。

教育は、働いていても生涯現役・育成という形で、学校教育とは違う角度からの教育もあります。現在、労働組合の役員のなり手が少なくなってきており、また企業においては人材不足で、人材育成まで手がまわっていない状況です。そういう観点で皆さんに現状を知っていただき、これからどう進めていけばいいのかお知恵をいただければと思います。

○ 本郷 真紹 委員（学校法人立命館理事補佐・立命館大学文学部特命教授）

私は、生まれも育ちも大阪ですが、学生の頃から43年程、京都で学生あるいは教員として生活をしています。専門は日本古来の宗教史です。

先日、別の会議で門川市長とお会いし、市長が「教育長時代から中央の教育再生実行会議等も含めて様々な会議に出ているが、この京都市社会教育委員会が一番建設的でふっと気付かせていただける意見を頂戴してきた」と確信を持っておっしゃっていました。私もそのように感じています。また色々なことをご教授いただけたらと思います。



○ 榎木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）



着物を通して次世代を育成することをライフワークにしています。現在は、高校や大学で着物文化の授業を行っています。着物離れと言われますが、着物は日本文化の一つでもあり、京都が誇る大事な産業でもあります。大学では、留学生も日本の学部生も、着物を新しい文化という感覚で楽しみながら受け入れてくれています。着物の基礎知識のほか、京友禅や西陣織の工程、和装が必須の京都三大祭などの文化も絡めながら授業を行っています。

私は、京都生まれの京都育ちです。社会の動きや時代とともに京都のまちも変化し、暮らし方や価値観が変わっていくことを痛感しています。この会議で一緒に考えながら、勉強させていただければと思います。

○ 松田 規久子 委員（京都新聞社文化部編集委員兼論説委員）

30数年、京都新聞で外勤記者として働いてきて、今年からは文化部編集委員を務めています。私生活では、子どもたちも独立し、気が付いてみたら夫婦二人で、さあ何をしようかというところです。

仕事では、これから男女雇用機会均等法以降に入った女性が大量に定年退職されるので、この世代は今どのようなことを考えて、何をしようとしているのかに興味を持ち、テーマにとりあげようかと考えています。



○ 森 清頭 委員（北法相宗宗務長、清水寺執事、上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）



清水寺で、北法相宗の宗務長と、お寺の執事・教学部長をしています。また、上智大学のグリーンケア研究所で、悲嘆に寄り添える方を育成するお手伝いをしています。寄り添っているつもりが、評価してしまっていることが多々あり、寄り添っていける社会をどうやって作っていくべきなのかと考えながら活動しています。子どもたちが大きくなったときに、どのような社会になっていくのかと、切実に感じながら生活しているところです。

○ 森口 真希 委員（株式会社堀場製作所 理事 管理本部副本部長）

京都の企業で働く女性という立場で会議に関わり、1期目では、組織で働く女性の視点で弊社の取組を紹介しました。

子どもの教育と大人の学びは、密接につながっています。この会議は、子どもから大人、そして高齢者、女性男性に関わらず、幅広く学びを共通テーマとして話ができ、貴重な場だと考えています。

会社では、ダイバーシティ推進を含む人財部門を担当し、プライベートではNPO法人で女性のキャリア支援の活動をしています。働く女性が増え、社会と家庭と様々な点や面が繋がってくる感覚があります。私の父親世代は、男性は仕事は家庭に持ち込まないという環境でしたが、今は家族で助け合い、働きながら子育てや教育をとという社会に変化しつつあり、仕事と家庭の垣根が融合されていく感覚は悪くないのではないかと感じています。

ここでは、多様な人たちが知識や経験を融合させて、それを持ち帰って、発信できる素晴らしい場だと感じていますので、今期も楽しみに活動させていただきたいと思います。



佐竹 美都子 委員（株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表）はご欠席のため、次回ご出席の際に改めて紹介するよ。



■ 委員の職務・会議規則等について

■ 議長・副議長の選出

自薦・他薦がなかったため、事務局からの提案として、会議の継続性を考慮し、本郷 真紹 委員に議長を、森 清頭 委員に副議長を引き続きお願いしました。

■ 開会

■ 議事一1 会議の公開について

会議は原則として公開し、市民の傍聴を認めること、また、会議の摘録を公開することについて、合意しました。

■ 議事一2 京（みやこ）まなびミーティングについて

京都市では、生涯学習の理念を市民と共有し、市民ぐるみで生涯学習のまちづくりを進める機運を高める取組の一つとして、社会教育委員による講演会などを実施しています。

これまでのレポートはこちらから↓

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/category/180-8-2-0-0-0-0-0-0-0.html>



■ 議事一3 第36期の審議テーマ等について

○ 事務局説明（小野生涯学習推進課長）

審議テーマ案として『はばたけ未来へ！京^{みやこ}プラン2025』のさらなる推進「多様な学びのネットワークによる生涯学習まちづくり」を提案します。

また、各回の審議内容としては、「誰一人取り残さない生涯学習（SDGsの観点から、誰もが学ぶことができる環境を）」、「ポストコロナのデジタル社会での学び方」、「多文化共生社会における生涯学習の推進」、「京都ならではの文化力の向上と発信」、「市内の生涯学習関係施設の活用」、「地域学校協働活動の一層の推進」等々を想定しています。

○ 本郷議長

これまで、人と人とのつながりと京都の魅力の発信について、議論してきました。京都の魅力の外への発信については、文化庁の移転や京都駅前への京都市立芸術大学の移転とインパクトは強いと思います。京都の外の方は京都に魅力や関心を持っていますが、京都で暮らす私たちが、その魅力について十分理解しているのかということです。

京都は、市民の10人に1人が学生で、京都外から多くの方が来て学んでいますが、自ら積極的に探さないと、京都ならではの魅力に接する機会が少なく、もったいないと感じています。市が一体となり、世代を超えたコミュニケーションの場をどのように設定するかが重要な課題になってきます。そこで、広報の手段、場の設定などのご意見をお聞かせいただきたいです。

○ 森副議長

これまでの議論でも、「横のつながり」が見えてこないという意見がありました。学生や様々な方をうまくマッチングして地域で生かし、活力をいかにして次につなげていくかが課題だと思います。

審議内容に関しても、その中身をつなげていくためには、どうすべきなのかと具体的な議論ができたかと考えております。子どもの教育について考えると、やはり家庭教育の中で、親の関心がとても大事なので、家庭全体を含めて考えていく必要があると思います。

○ 森口委員

テーマ案の「横のつながり」について、企業でも、良いものがあるのに、つながっていないから次の一手に踏み出せないということは、共通の課題として認識しています。異質なものが出会うことでイノ

バージョンが起こりますが、出会っただけでは不十分で、コミュニケーションをとり、違いを生かしながら、次にどうするかを議論できると、この会議の価値が出るのではないかと感じました。

今、京都の企業の課長クラスの有志が、教養を仕事に活かしたいという思いで、大学や文化関係の講師を呼んで勉強会を開いています。京都市のリーダーシップのもとに、このような活動が広がると嬉しいです。

コロナ禍を過ごし、リアルなつながりの価値を見直したところで、ハイブリッドの価値も併せて考えていけると良いです。広報紙等についても、今のやり方で市民に届いているのか疑問があり、そこも含めて皆さんとディスカッションできればと思いました。

○ 本郷議長

コロナ禍もあり、若い世代のつながりの手段はネットが中心になっています。ネットでコミュニケーションがとれたと満足し、いざ実際に人と対面して会ったとき、どう対応していいかわからなくなってしまうことがあります。様々な機会を通じて本物に触れること、人と人とのふれあいが大切です。

○ 大脇委員

「京都ならではの文化力の向上と発信」の「文化力」とは何でしょうか。「文化力」の定義があれば教えていただきたいですし、「文化力」という言葉を簡単に置き換えてお話いただくとわかりやすいかと思います。

私は、子ども食堂で勉強を教えているという立場上、「文化力」とは、勉強を例にすると、子どもから大人まで、勉強はした方が良いという考えが、「習慣として根付いていること」かと思っています。新しく変えることはもちろん大事ですが、今までの方法でうまくいっていたものがあるのであれば、それを続けていくことも大切です。

○ サコ委員

まず、SDGsについて、目標は2030年ですが、その後どうするのか。SDGsは、自分の国さえ良ければ良いという話ではないので、京都とグローバル（世界）の関わりについて見る必要があります。最近、京都はウクライナに積極的に関わっていますが、SDGsを京都の内外でどう見ていくか。内側では頑張っていますが、外に対してどうか。私は最近、海外を5か国訪問してきましたが、SDGsについて考えている国はありませんでした。ですので、空回りにならないように、京都がSDGsのリーダーシップをとるなら、もう少しグローバル（世界）に対して、提案を検討する必要があります。

2つ目は、「ポストコロナ社会」と「デジタル社会」は、2つに分けて考える必要があります。私たちは、社会のあり方を含め、コロナに教えられたものが多くあります。コロナから学んだものとして、地域に目を向けられたこと、非常にスピード感があった人間関係は、少し立ち止まって考えることもできました。それを教訓として、これからの京都をどのようにしていくか、社会を見直していく必要があります。コロナが与えた衝撃・限界から、私たちがこれまで目指していた社会が間違っていたのではないかと気づかされました。社会のあり方について、みんなで学んでいくことが必要だと思います。

先ほど、若者がデジタルで満足し、社会や人に対する態度ができていないようにおっしゃいましたが、むしろ私たちが、彼らがなぜそういうところにいるのか学ぶべきだと思います。私たちが、彼らと教育のずれがあるままではいけません。彼らがなぜその社会の中にいるのか、若者のメッセージをとらえる

必要があります。

今、生涯学習の場には、高齢者が多く、若い人が来ません。それは、若者のコンテンツがないからです。若者をどのように誘うのか。デジタルの活用を悪いようにとると、デジタルに使われてしまう社会になってしまいます。デジタルをどう工夫して使うか、それに若者をどう巻き込んでいくか、彼らの視線で見えていくことが大切です。この会議をYouTubeで流すと、若者も見ると思います。私たちが、若者を誘うためのノウハウを詳しい人に学び、若者を巻き込み、その力を活かすことが大事ではないかと思えます。

最後に、審議内容案に「多文化共生社会」とありますが、「多文化共生」と「多様性」は違うので、「多様性」を盛り込んでいただきたいです。

○ 七海委員

映像で記録して発信することは、面白いのではないかと思います。

「横のつながり」は大事です。私は、対面での学習を大事にしており、コロナ禍でも、ラジオの制作を通して、子どもたちの心を通わせる取組をしてきました。実際に会って、異世代で交流し、互いに理解し合えるものがあると思えます。達成した、成功したと体得することが、学習意欲に関わります。大人も、自分で伸びしろがあると思った方が、学ぶ意欲が湧きます。体験活動は良いと思えます。

○ 伊住委員

NPO法人 和の学校では、今年、京都市立みつば幼稚園でワークショップを行いました。幼児教育で有名なイタリアのレッジョ・エミリア市では、地域の伝統工芸品や工業品などのパーツや部材をアート教育に活用する取組があります。それを参考に、掛け軸の端切れなどを伝統工芸産業に関わる方から提供いただきワークショップをしました。

今後も長く活動していきたいのですが、リサーチ不足もあり、活動できる場所をあまり知りません。審議内容の「市内の生涯学習関係施設の活用」に関わりますが、活動ができる場所として、図書館などの生涯学習施設の他にも、活用が図られてない建物もあると思えます。

そこで、生涯学習関係の取組に使える建物がどこにあるのかという整理ができればと思います。市内には公共の建物に茶室がありますが、お湯を沸かす釜を入れる炉が使えない、飲食物の持込みに制限があるなど、茶会で自由に使えないケースがあります。

建物の使用に関する制限も、建物を継承していくためには重要ですが、それを重視しすぎて活用が図られないと、人が集まらなくなり、建物の衰退につながります。場合によっては、規制の緩和も考える必要があると感じています。茶の湯文化も生涯学習の一端を担っています。様々な方に文化を経験していただくためにも、建物の活用と、活用が図られていない建物の状態、あるいは現場の皆さんが活用してほしいと思っている建物がどれくらいあるのかなど、今見えていないところを知りたいと思っています。

○ 本郷議長

せっかくの設備環境が十分に生かされていない、工夫の仕方によって違った形での提供ができるのではないかというご意見で、過去の会議では、元小学校の施設が今どういう形で活用されているのかの紹介と施設見学の機会がございましたので、そういったことも事務局に計画いただけたらと思います。

では、『はばたけ未来へ！京プラン 2025』多様な学びのネットワークによる生涯学習のまちづくり」を柱に据え、これから具体的な議題について設定させていただきまして、前もって委員の皆様方にはそれをお知らせした上で、普段お感じになっていることをこの会議の場で発言いただきたいと思いません。

■ 報告一 京（みやこ）まなびミーティングについて（本郷委員）

本郷議長に「八幡神と古代の王権」というテーマで、京都アスニー特別講演会において市民の皆様にご講演をいただきました。

○ 本郷議長

驚くほど早くから来場され、熱心に聞いていただき、こちらの方が感心させられ力をいただきました。委員の皆様方にも、講演を依頼することがあると思いますので、その折にはよろしくお願いいたします。

■ 報告二 京（みやこ）まなびいニュースレターについて

文化庁移転記念として、「京都の文化を満喫しよう」と題し、秋に開催される文化や芸術に関するイベントの情報を紹介し、右面では、3月の社会教育委員会議での「文化庁移転を契機とする文化力の向上、発信について」でのご意見を抜粋して掲載しました。

■ 報告三 令和5年度 指定都市社会教育委員連絡協議会（WEB開催）について

○ 本郷議長

オンラインで出席し、[京まなびパスポート](#)の話が取り上げられ、改善したらどうかという建設的な意見を名古屋市の委員の方からいただき、意見交換は大事だと改めて実感しました。

■ 主催事業及び刊行物の案内

■ 宮前生涯学習部長挨拶

■ 閉会

